

ニュースレター No.16

発行：2002年3月

◆ちょうふ環境市民懇談会 第1回シンポジウムが盛大に終了しました。

ちょうふ環境市民懇談会第1回シンポジウムが2月23日(土)に文化会館たづくり大会議場で開催されました。13時45分から17時30分と少し長いシンポジウムでしたが、スタッフを含め56名の参加者を迎え、このニュースレターでおなじみの活動グループの紹介やこれまでの活動を物語風にまとめた「調布里山物語」そして、パネルディスカッションでは調布の里山についてパネリストの方々から熱い思いが語られました。



運営委員に選ばれた尾辻さん、佐久間さん、江刺さん、四方田さん、小豆畑さん

◆プログラム◆

懇談会は、組織ではなくしくみ。情報発信の基地として、たくさんの方が交流し、活動を活発にしたい。難しく考えないで、みんなでかかわろう!

- ①調布を知ること、モニターの活動はそこから始まりだった。
- ②一年間現地調査を行い、ようやく管理作業を行うことができた。
- ③遊びの中で、自然のすばらしさ、大切さを子どもたちに伝えたい。
- ④お米作りは大変だけど、楽しい。イトトンボがきれいだった。
- ⑤人がかかわりあってきた林、新たなかかわりを見つけていきたい。

- あいさつ
 - ・調布市環境部環境保全課：門傳さん
 - ・ちょうふ環境市民懇談会：尾辻さん

- 活動紹介
 - ①環境モニター：江刺さん
 - ②入間・樹林の会：本多さん
 - ③野川・里山探検隊：小池さん
 - ④田んぼの学校：近藤さん
 - ⑤雑木林塾：佐久間さん
 - ⑥パネル紹介(ねこじゃらし、大気汚染測定運動調布連絡会、身近な川を見守る会、調布自然の会、エコクラブ)

- 調布里山物語
 - 語り：倉林さん

- パネルディスカッション
 - ・コーディネータ：四方田さん
 - ・パネラー：近藤さん、渡辺さん、江刺さん、小豆畑さん

- まとめ
 - ・運営委員の選出
 - ・今後の取り組み

昭和30年ごろまで調布の人は、自然と共に生きていました。私たちがいま調布の自然にかかわらなければ、かつての風景は二度ととり戻せないでしょう…

～アンケートより～

自然とのかかわりの重要性が理解できた／活動が市民主役に広がることが重要／調布の自然を再生し、豊かなものにしていくことは大切／身近なまちの自然を守り、育てている方、親しんでいる方がたくさんいることがうれしくなった／調布の四季を美しく楽しく写して爽やかだった／活動の楽しさを体験できた／今後の広がりを期待したい

「ちょうふの自然」は、調布の自然を調べている環境モニターの記事です。

●ちょうふの自然

仕事で大気から地球温暖化や鉱公害防止問題に取り組んでいたこともあり、それから開放されるとすぐに環境関係のボランティアに飛び込みました。でも仕事でやって来た問題より自然観察のほうに気持ちが傾いてしまったのは、自然の成り行きでしょうか。ただ、草木や鳥の名前を覚えるのは苦労しますね。畑作りを趣味にしていると、野菜以外の草や木、鳥などは大敵です。敵ですから名前など覚える気もしませんでした。松尾芭蕉の句に「よく見れば なすな花咲く 垣根かな」というのがありますが、よく見ると本当に違いが見えてきます。今まで見えなかったことが不思議なくらいです。

この間伊豆の山道を歩いていて、ヤドリギで遊ぶヒレンジャクの群れに出会いました。尾羽の先の鮮やかな緋色、初めて出会った感動、そんなことにすっかり嵌まり込んでしまいました。生き物にせよ、植物にせよどうしてこんなに違いがあるのでしょうか。まだまだ駆け出しですが、少しでも「違いがわかる男」になりたいと願っています。

(菊野台在住6年、佐久間 昭)

一 内 容

- シンポジウム開催ほか
- 調布市内の活動報告
- 連絡会議議事要旨
- イベント情報

調布市内での活動報告！

雑木林塾（連続講座 第5回）

2月17日(土)、今回の作業は樹木マップ作り。木にナンバリングをし、樹種、幹周り、健康状態等を記録する班と、三角測量法で木の位置を計測して記録する班と、2班に分れて作業しました。幹周りがおよそ20センチ以上のものだけを対象にしましたが、それだけでも120本。1番多かったのはコナラ。続くクヌギ、エゴとで過半数を占めました。その後富士見町地域福祉センターに移動して、次回3/17「雑木林まつり」のプログラム作りとポスター描きをしました。イベントの欄にも掲載していますが、自然観察あり、木の伐採あり、甘酒・豚汁ありと親子でも楽しめるイベントを企画しました。もちろん、自然が好きな方が来ても楽しめます。ふるってご参加ください。



こどもエコクラブ

冬の自然調べ隊は、2月13日(日)午前9時、京王多摩川駅を出発点として開始されました。曇天でしたが5組15名の親子連れが集まり、日本野鳥の会東京支部(3名)の指導のもと野鳥や野草を川原沿いに見て歩きました。鉄橋下に営巣するチョウゲンボウの出迎えを受け、目の前に留まってくれたカワセミに歓声を上げ、遠目ながらカムリカイツブリに見とれるなど31種の鳥たちに出会いました。足元ではホトケノザやオオイヌノフグリが可憐に咲き、枯れたガガイモも見つけました。次回は3月9日(土)10:00 街路樹の観察を行います。

「ちょうふ DE 田んぼ日記その10」田んぼの生き物の秘密

昨年、田んぼでは、アマガエルが大発生しました。このアマガエルの大発生をささえているのがおそらく大発生したミジンコでしょう。ミジンコは田んぼに残されていた休眠卵が水温などの条件により生まれます。えさなどの条件がミジンコにとっていいものであれば、ミジンコはたくさん子供を作って増えます。ミジンコのえさは植物プランクトンですが、栄養が豊富ないと植物プランクトンは増えません。浮き草やアオミドロが大量に発生するのも栄養がいい証拠です。ここで栄養とは窒素やリンのことで、稲の成長にも必要なものです。したがって、アマガエルの大発生は豊作を保证する？

(野川で遊ぶまちづくりの会 尾辻)



環境モニター活動

23日のシンポジウムでは、パネルにした「秋の野草調査」と環境マップを材料に、江刺さんが活動報告をしました。実際に聞いてみると大変だったなあと思いますが、やってよかったと思ったモニターが多かったのではないのでしょうか。現在は冬の樹木調査終了段階で、春の調査テーマを検討しています。調査は、寒いと大変で春が待ち遠しいです。ところで、3月10日(日)に3回目のガイドウォークを実施します。つつじヶ丘駅南口に10時に集合してください。春の崖線ウォークが楽しめるはず。入間川右岸に沿った崖線を糟嶺神社の丘、野川、入間公園と歩き、国分寺崖線を西上するコースに移り、NTT敷地に接して入間・樹林の会のフィールドへ、若葉町の崖線樹林も観察し、最後は実篤公園で12時過ぎに解散です。早春の崖線を目と香りで満喫しませんか。

野川・里山探検隊

今年度最後の探検が、2月24日(日)にかに山で行われました。10時に集合した時はまだ寒かったのですが、26名の探検隊員と16名の保護者が参加し、付近の雑木林で炭焼きに使う薪を集め、皆が持ち寄ったマツボックリ、ドングリ、椿の花、木の実などを金属製の箱や茶筒に詰め、焚き火で炭を焼きました。なかには蓮根やピーマンを焼く隊員もいましたが、マツボックリの鱗状の肌の感触を楽しんだりしました。午後は木片を削り、凧糸で回転させると面白い音がするブンボンを作り、鳴らしてみたり、ロープ細工で崖の昇り降り、落ち葉のかけあいなど、楽しい1日でした。



第 16 回 連絡会議 議事要旨

●第 16 回連絡会議の議題

- ①プロジェクト等の情報交換
- ②シンポジウムに向けて
- ③リハーサルの内容
- ④その他

日時 平成 14 年 2 月 14 日 (木)
18:30~21:00
場所 調布市役所 3F 消費者相談室
出席者 9 名

◆連絡会議で話し合われた内容は…

1. プロジェクト等の情報交換

連絡会議はおもに情報交換の場として開催されています。このニュースレターの活動報告やイベント情報は、その時のものをまとめたものです。(どなたでも参加できます。)

2. シンポジウムに向けて

(1)タイムテーブルと内容について

前回、決めたプログラムの流れと、その内容について検討を行った。

- ・会場設営の順序や受付・パネル運搬等、役割分担を行った。
- ・調布里山物語と活動紹介の時間配分と内容分担について話し合った。活動の取り組みについては、調布里山物語で一切ふれず、すべて活動紹介に入れること、そのために活動紹介の時間を延ばすこと、調布里山物語は「物語」風にまとめることが合意された。
- ・パネル紹介と休憩は、調布里山物語の前に変更することとした。したがって、調布里山物語とパネルディスカッションの間の準備は、休憩時間をとらずに行う。

(2)会場のレイアウト

- ・参加予想人数を 80 名程度として、余裕を持って 120 席並べる予定でレイアウトを検討した。レイアウトについては了承されたが、状況によって現場で判断することとなった。
- ・活動紹介として、パネル掲示を行う予定のグループとパネルの枚数について検討した。たづくりで借りられるパネル枚数は 11 枚、予想掲示枚数は 14 枚となったが、状況を見てテーブルなどで対応する。

(3)パネルディスカッションの内容

パネルディスカッションを通して参加者に何を覚えてもらいたいかが再検討した。結論としてパネルディスカッションの内容は、コーディネータに任せるが、活動に参加すると楽しい、調布の自然に手をかけないと残っていかないといいことを参加者に感じてもらうことを確認した。

(4)その他

調布里山物語の内容、来年度の活動などは、2月16日・19日(リハーサル)に検討を行った。

3. リハーサル(2月16・19日)の内容

- ・2月16日(土)の検討内容(10:00~17:00)
パネルディスカッションの内容、パネリストの検討、来年度の取り組み、調布里山物語の内容について検討した。
- ・2月19日(火)の検討内容(18:30~21:30)
スタッフ役割分担の再確認、調布里山物語の内容について検討した。

4. その他

- ・プロジェクト等に関わる会議の日程

日時	場所	活動名(主な内容)
3月4日(月) 18:30~20:30	市役所6階 第6会議室	環境モニター 世話人会 ガイドウォークのコース、春の調査について
3月5日(火) 13:30~15:30	京王線つじヶ丘 南口集合	環境モニターガイドウォーク下見 3月10日の下見を実施
3月5日(火) 18:30~20:30	市役所6階 図書教養室	雑木林塾 運営会議 第6回講座の役割分担や今後の雑木林塾について
3月10日(日) 10:00~12:00	京王線つじヶ丘 南口集合	環境モニター ガイドウォーク 入間川に沿って調布の春を探して歩きます。
3月11日(月) 18:30~20:30	市役所8階 第8会議室	環境モニター 連絡会 春の調査内容やこれまで行った秋冬の調査について
3月13日(水) 18:30~20:30	市役所6階 図書室	入間・樹林の会 世話人会 24日の作業内容について
3月17日(日) 10:00~16:00	どんぐり林公園	雑木林塾 第6回講座 詳しくは、イベント情報欄
3月22日(金) 18:30~20:30	市役所6階 図書教養室	環境市民懇談会 連絡会議 活動の情報交換や今後の取り組みについて

次号より、このページを一新します。議事については、メーリングリストで公開します。

絵っせい：窓からの風景

「赤駒を山野に放し 捕りかにて 多摩の横山 徒歩ゆか遣らむ」

万葉集の防人歌の一首ですが、当時横山と呼ばれた多摩丘陵が舞台となっています。ところで、この横山とはどこから見た風景なのでしょう、詠み人は防人として夫を送らなければならない豊島郡の黒女となっています。写真は星美学園南の国分寺崖線からのショットですが、横山よりも丹沢山塊が目立ってしまっています。これでは横山を歌えません。やはり、国分寺崖線を下った立川段丘面から見るのが自然であり、府中に存在した国府の付近から見たとするのが妥当でしょう。おそらく当時は、国分寺崖線から北の武蔵野段丘面には、崖線に沿ったごく限られた地域を除き、人は住めなかったはず。また、道もなく、人は川に沿って行き来をしたのではないのでしょうか。そうした人にとって多摩川を、多摩の横山を越えての旅はそれこそ命懸けだったのかもしれませんが。

最近は建築物により、なかなか多摩丘陵を望むことも難しくなりましたが、大事な風景であることに変わりはありません。



丹沢山塊 (写真が見つらくてゴメンナサイ)

参加しませんか？

● こどもエコクラブ

～駅前広場の街路樹ウォッチング～（小雨決行）
 日 時：3月9日（土）10:00～12:00
 集合場所：市民センター4階
 持ち物：筆記用具、色鉛筆、クレヨン等（防寒に注意）
 駅を利用する時何気なく通り過ぎてしまう調布駅南口
 広場。そこはいろんな表情をしたたくさんの木々が植え
 られている自慢できる広場です。まだ堅い芽、ほころん
 だ芽、面白い形の木、身近な木を調べてみましょう。

● 環境モニター ガイドウォーク

日 時：3月10日（日）10:00～12:00
 集合場所：京王線つつじヶ丘駅 南口
 持ち物：筆記用具等（定員 30名）
 つつじヶ丘駅から入間川に沿って環境モニターが崖線
 樹林地など、ガイドウォークを行います。予定では 2
 時間ほど散策します。マップを片手に身近な自然を探し
 に出かけませんか？解散は実篤公園です。

● 雑木林塾(第6回)～雑木林まつり～

日 時：3月17日(日)10:00～16:00(雨天中止)
 場 所：どんぐり林公園（富士見町3丁目）
 参加費：無料
 持ち物：昼食、飲み物、お椀、カップ、箸、
 軍手、タオル、筆記用具等
 雑木林塾受講生主催のイベントを開催します。現地の観
 察会、雑木林塾の活動報告、シイタケのほだ木作り等
 を行います。豚汁、甘酒もあります。是非ご参加ください。

● 入間・樹林の会 保全作業

日 時：3月24日（日）9:30～12:00
 集合場所：入間地域福祉センター
 （場所のわからない方は仙川駅前9時集合）
 持ち物：軍手、タオル等
 マテバシイの木を利用して、シイタケのほだ木作りを
 します。作業しやすい服装でお越しください。作業の
 進み具合によっては、午後に及び事もあります。

（お申込み・お問合せ 環境部環境保全課まで）

その他の情報

■ 桜美林大学オープンカレッジ新宿教室

2002年度 春季講座（講座番号37）
生態学から見た自然—自然を友とするために—
 自然を友とし、生物たちとの共存のために必要なことを学びます。
 授業日：5月10日～7月12日 14:30～16:00（全10回）
 定 員：20名
 受講料：22,000円
 受付期間：2月12日(火)～4月20日(土)（日、祝除く）
 ※詳しくは下記事務局までお問合せください。
 桜美林大学新宿キャンパス事務局
 〒151-0053 渋谷区代々木2-9-2 久保ビル4階
 TEL 03-5304-5381 FAX 03-5304-5383
 e-mail extnsn-s@obirin.ac.jp

■ 2001 ワイルドライフ写真大賞展

3月31日まで
 入場料：大人500円、子供50円
 フィールドミュージアム 府中市郷土の森博物館
 TEL 042-368-7921

◆ メーリングリスト加入者募集中！

ちょうふ環境市民懇談会では、日常的に情報の交換を行うた
 めにメーリングリストを立ち上げました。
 お問合せは尾辻 (kp5y-otj@asahi-net.or.jp) まで

■ 長沼公園 カタクリ観察会

—多摩丘陵に春を呼ぶカタクリを楽しみませんか—
 ●観察会「カタクリの紹介と長沼公園の説明」
 日 時：3月30日(土)、31日(日) 10:00～15:00
 受 付：長沼公園墓地前広場
 参加費：50円（保険料1日分）
 ※ 雨天中止、歩きやすい服装で
 ●特別講座「春の植物とカタクリ」
 講 師：畔上 能力 氏
 日 時：3月30日(土) 10:00～11:30
 会場・受付：六社宮内 長沼町会館
 事前申込み不要（先着50名）
 参加費：50円（保険料1日分）
 主 催：多摩丘陵の自然を守る会、自然教育研究
 センター、桜ヶ丘公園管理所
 問合せ：桜ヶ丘公園管理所（042-375-1240）

■ 多摩川源流写真展 知られざる源流の四季

撮 影：中村 文明 氏（多摩川源流研究所所長）
 日 時：3月8日(金)～14日(木) 9:00～21:30
 （初日は13:00開会、最終日は15:00終了）
 場 所：たづくり11階 みんなの広場
 主 催：多摩川源流研究所
 後 援：調布市環境保全課・（財）調布市文化・コミュニティ振興財団

ちょうふ環境市民懇談会は、調布市内の自然環境を保全・改善・回復していくために、
 「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」
 といった活動を、パートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。
 様々な環境保全活動にご協力いただけるボランティアを募集しています。
 連絡会議へ是非出席してください。

●次回連絡会議 2002年3月22日（金） 市役所6階第図書室 18:30～20:30

お問合せ先：調布市環境部環境保全課 小豆畑・倉林 TEL 0424-81-7086

発行：ちょうふ環境市民懇談会 E-mail：kanky@w2.city.chofu.tokyo.jp

自然環境の学習や保全に関する情報を募集しています。また、様々なお便りも募集しています。